ふくサポスタッフが選ぶ 勝手に チラシ大賞！！

ご利用者の皆さんにお持ちいただいたチラシの中から当センタースタッフが「わかりやすい！！」「興味をそそられる！！」チラシを勝手に選びました。印刷室にチラシとそのチラシを選んだポイントを掲示してありますので、ご利用の際、参考にご覧ください。

知らなかったで賞
ＮＰＯ法人バリアフリーツアーセンター
これまで知らなかった・内容がわかりやすく興味をひきました。「ナイス・アイデア！です」写真と説明が絶妙に組み込まれているのがよいですね。
（60代男性スタッフ）

（上）にゃんこ隊長

インパクトがあるで賞
ＮＰＯ法人市民公益活動パートナーズ
公益財団法人プラン・ジャパン
・ひきつけられるメッセージ性のある写真に興味がわきました。
・複数の写真を活かしポスターのような印象があります。また、内容もわかりやすいです。（20代男性・30代女性スタッフ）

福島市市民活動活性化支援事業公開プレゼンレポート

6月14日(土)、福島市市民会館において「平成26年度福島市市民活動活性化支援事業補助金公開審査会」が行われた。各団体とも５分間のプレゼンテーションのなかで、活動にこめる熱い想いを伝えていた。19団体から応募があり、審査の結果13団体が採択された。採択された団体・事業は次の通り。

＜ファーストステップ部門＞
ママcom ナウチカプロジェクト『子育て支援 講演会事業』、福島・松川八丁目宿場町(FACE TO FACE コミュニケーション)交流企画実行委員会『<福島・松川八丁目宿場町>あなたと相対(会いたい)～《夏の陣》～宿場町交流フェスティバル』、親の学びネットワークふくしま『親の学び支援事業』

（左写真）
パワーポイントを用いて説明する発表者

＜ステップアップ部門＞
公益社団法人日本オストミー協会福島県支部 福島方部『オストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者)のための相談会の開催』、福島県ひまわり会福島方部『福島県ひまわり会福島方部 動作法学習会』、認定特定非営利活動法人ふくしま成年後見センター『成年後見広報事業』、認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会『認知度向上のための募金箱設置事業』

＜新規事業チャレンジ部門＞
特定非営利活動法人子ども未来クラブ『What’s JUDO？ 小中学生柔道大会inちびっこ体験講習会』、特定非営利活動法人ふくしまバリアフリーツアーセンター『福島市内の避難所マップ「ふくしま安心なび」の普及事業』

＜地域別まちづくり部門＞
新田茂田川ホタルの里保存会『ホタルの里づくり』、福島市信夫地区史跡保存会『福島市信夫地区史跡保存会 創立50周年記念事業』、信夫の里パークゴルフクラブ『パークゴルフ場を通したまちづくりの推進』、岡山地区の子どもの未来を考える会『岡部夏まつり』

編集後記

間もなく七夕。七夕には願い事を短冊に書き、笹竹に飾る習慣があります。笹竹を飾り始めたのは室町時代からとか。笹はまっすぐのびて成長します。その葉の擦れ合う音は神様を招くと考えられていました。天上に住むとされるご先祖様の霊が、地上に降りてくるとされ、飾られた後、川や海に流されていたようです。また、短冊をつるし始めたのは江戸時代になってからとのこと。手習いが盛んになり、願い事を書き、笹につるし始めたようです。行事に歴史ありですね。ふくサポも皆様との歴史を刻みながら、一歩づつ歩んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いします。（内山、桜井、菱沼、秋廣）

ふくサポ通信

福島市市民活動サポートセンター通信
2014年6・7月号
発行日：２０１４年6月30日
編集：特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター
発行：福島市市民活動
サポートセンター
〒960-8041
福島市大町4-１５
チェンバおおまち ３階
TEL：０２４-５２６-４５３３
FAX：０２４-５２６-４５６０
URL：http://www.f-ssc.jp
E-mail:f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間 ９：００～２１：００
■休館日 毎週火曜日・年末年始
（12月29日～1月3日まで）

ふくサポとは・・・
・市民活動やボランティアの情報を提供しています。
・市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。
・登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。
なお、ふくサポはNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが福島市の指定管理者として、管理運営を行っています。

ふくサポの連絡先はこちらから

◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、車でお越しの節は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

コラム

「なぜ、いま、組織基盤の強化が求められているか」

ＮＰＯ法人ふくしまＮＰＯネットワークセンター理事長／
福島大学名誉教授 星野 珙二

経営資源というのは、「ヒト」「モノ」「カネ」といった有形財産と「情報」といった無形財産の総称、という定義をした経営学者がいます。エディス・ペンローズという人です。彼はまた、企業の成長に限界が来るのは物理的な制約からではなく、相対的に経営資源が不足するからである、と警鐘を鳴らしました。

ＮＰＯのマネジメントにおいても、ペンローズの説はそのまま当てはまると思います。今日、ＮＰＯの分野で組織基盤強化と言われている内容も、実はそのことに深く関係しています。組織が成長していく過程において、あるいは経営環境が大きく変化するような場合、こうした時宜を得た経営資源の充足とそのマネジメントは何よりも大きな課題になるでしょう。実は3.11東日本大震災の経験も、そのことを教えています。

たとえば、ＮＰＯの活動において、もともと災害救助をテーマとした団体は別として、日常的にテーマを抱えて活動している団体が、緊急的に支援活動に取組もうとすると、上に述べたような経営資源が不足していることが直ちに組織活動のボトルネックになります。災害支援に明るい人材の確保や育成であったり、支援物資や保管の場所の確保であったり、活動資金の調達であったり、あるいは被災者のニーズ情報や支援者のシーズ情報の収集とそのマッチングであったり、新たに経営資源を集めた上で、さらに合理的・効率的に組織をマネジメントしていかなければなりません。そうした、さまざまな資源を確保しながら、組織活動の目的実現のために経営資源を統合していくプロセスが必要になりますが、まさに資源の確保とその統合プロセスに自覚的に取組み、成長を遂げていくことが組織基盤の強化ということではないでしょうか。

福島県におけるＮＰＯ認証数は、東日本大震災を挟んで大きく伸びました。熱い想いを抱いて立ち上がった団体が多いと思いますが、組織基盤強化に留意され、是非とも大きく成長していただきたいと願っています。

もくじ

○コラム
「なぜ、いま、組織基盤の強化が求められているか」
○福島市の活動団体を訪ねる
第２８回 公益社団法人 認知症の人と家族の会
○イベント現場からレポート
アートさをり 他
○助成金・イベント情報
○スタッフが選ぶ勝手にチラシ大賞
○福島市市民活動活性化支援事業公開プレゼンレポート

福島市の活動団体を訪ねる

28回目
公益社団法人
認知症の人と家族の会　福島県支部福島地区会

代 表 者：福島地区会代表
福島県支部世話人　井桁　ユウ
事務所所在地：福島市渡利岩崎町３９－２
連 絡 先：ＴＥＬ ０２４－５２２－７８８６
ＵＲＬ：http://www.alzheimer.or.jp
（「認知症の人と家族の会」本部のホームページ）
電話相談：０２４－５５７－８８４５（高橋　不在の時有）
会　　員：１９７名　　**活 動 歴**：約３０年
活動目的：ともに励ましあい、助け合って、人としての実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

（上写真）輪になってフォークダンス
（本人交流会）

木々も緑色づく5月、福島地区会代表の井桁さんにお話しをお伺いしました。穏やかな話し方の中にも活動への想いが伝わり、認知症について改めて考える機会となりました。

活動を紹介してください

「ぼけても安心して暮らせる社会」を目指し、家族同士、会員同士が励まし助けあい支え合い、活動を続けています。認知症はいつ自分や家族におこるか、わからない病気です。それだけに病気の本人も、支える家族も不安で大変な思いがあります。そういった方々の気持ちが少しでも軽くなり、安心して明るく生きれるよう「つどい」、「電話相談」、「講演会」「会報」の発行などをおこなっています。

（家族の会の会員がつくった）
―「認知症」早期発見のめやす―

＜物忘れがひどい＞
1．　今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる。
2．　同じことを何度も言う・問う・する。
3．　しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている。
4．　財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う。

＜判断・理解力が衰える＞
5．　料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった。
6．　新しいことが覚えられない。
7．　話のつじつまが合わない。
8．　テレビ番組の内容が理解できなくなった。

＜時間・場所がわからない＞
9．　約束の日時や場所を間違えるようになった。
10．慣れた道でも迷うことがある。

＜人柄が変わる＞
11．些細なことで怒りっぽくなった。
12．周りへの気づかいがなくなり頑固になった。
13．自分の失敗を人のせいにする。
14．「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた。

＜不安感が強い＞
15．ひとりになると怖がったりする。
16．外出時、持ち物を何度も確かめる。
17．「頭が変になった」と本人が訴える。

＜意欲がなくなる＞
18．下着を替えず、身だしなみを構わなくなった。
19．趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった。
20．ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる。

新しい取り組みを教えてください

現在、福島市では65歳以上の方が全体の26%近くいらっしゃいます。また、1人暮らしの方も増えてきていますので、地域包括支援センターや民生委員、警察の方達と連携して、今後起こりうる可能性を想定してのネットワークづくりを行っています。また、認知症についての理解を深めていただくようつとめています。

最後に皆さんに呼びかけたいことをお願いします

認知症は誰にでもおこる可能性のある病気です。また、早期発見早期治療で進行を遅らせることもできます。「まさか・・・」の迷い、「もしかして？」の戸惑い、「どうすれば！」の悩みや不安がありましたら、是非ご相談ください。また、会員には多くの経験者がおりますので、ご家族の方も一人で悩まず、気軽にご相談ください。

（上写真） 小さな助っ人大活躍！！活動のPRの様子

イベント現場からレポート

第13回初夏の風展　～平和を織ろう2014～

認定ＮＰＯ法人えんじょいらいふ福祉会では、5月22日～26日までアートさをり作業所（福島市南沢又）にて、「第13回初夏の風展～平和を織ろう2014～」が開催された。さをり織りとは、クリエイターと呼ばれる知的障がいを持つ若者が、様々な種類の糸を自由に織り込んでゆき、一人一人が持つ個性や感性を織り込む「差異を織る」から名付けられた手織りだ。世界に同じ物は2つと無い。この布で作られた手造りの多くの小物が展示販売され、大盛況だった。
また、会場では同所の所長の飯塚さんのギターにあわせ、歌や楽器を演奏し、踊るクリエイター達の楽しそうな姿があった。
秋にもまた芸術祭を催す予定があり、次回の展示会も期待したい。

（上写真）展示された小物

こども緊急サポートネットワークスタッフ会員養成研修会

NPO法人まごころサービス福島センターの子育て支援部門　こども緊急サポートネットワークふくしまは、5月21日から５日間にわたり、福島市国体記念体育館において、第38回こども緊急サポートネットワーク事業・スタッフ会員養成研修会を開催した。こども緊急サポートネットワークでは、「仕事と子育ての両立できる社会づくり」を理念に掲げ、病児保育や一時預かり、家事支援などを行っており、この研修会は、こどもを預かるスタッフ会員の養成をめざして開催された。参加者は、保育の心や小児看護の基礎知識、子どもの遊びなど保育に必要な様々なことを学んだ。多くのスタッフ会員が誕生し、子育てのしやすい環境がつくられていくことに是非期待したい。

（上写真）手づくりおもちゃの作り方を学ぶ受講者

チャイルドラインふくしま受け手ボランティア養成講座

チャイルドラインふくしまは、5月24日から全５回で、佐平ビル会議室と福島市市民活動サポートセンターにおいて、チャイルドラインふくしま第四期受け手ボランティア養成講座を行った。チャイルドラインは電話を通じて18歳までの子どもたちの気持ちに寄り添う活動だ。子どもたちは、全国共通のフリーダイヤルで電話をかけることができる。東日本大震災以降、福島の子どもたちからの電話は増加しているが、受け手ボランティアの数が不足しているのが現状だ。そのため、受け手ボランティアの養成をめざし、第四期養成講座が開催された。受講者は、5日間にわたる講座で、子どもの権利条約、チャイルドラインの歴史と理念、いじめに遭っている子どもとの向き合い方などを学び、実際に電話を受けるロールプレイにも挑戦した。受講者は、積極的に質問をするなど、熱心に学んでいた。

（上写真）熱心に講座に聞き入る受講者

浪江の紙芝居　読み手ボランティアを育てる講座

（上写真）紙芝居を読む読み手

ＮＰＯ法人市民公益活動パートナーズは6月15日から11月16日まで、福島テルサで「読み手ボランティアの育成講座」を開催している。（毎月1回）これは、震災後、浪江の避難者の方が住む仮設住宅に支援をしていく中で、浪江の紙芝居を演じる読み手の過疎化に悩んでいる事を知り、「このまま浪江の紙芝居を風化させてはいけない。これからの未来の若い世代にも読み継いでもらいたい。」との想いから、浪江まち物語つたえ隊・桑折ふるさと民話の会・保原ふるさと民話の会の読み手を育成することを目的に実施されている。紙芝居は、実際に大堀地区で小学校の教材にもなり、受け継がれている伝説から、地域に伝わる偉人伝や、実際に経験した原発避難を物語にした物など様々で、現在18本ある。講習の最後には、集大成として、新作を作り発表会としてお披露目するという。今後、成長した若いボランティアの活動に期待したい。

助成金 活動支援 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります
（担当：桜井千鶴子・秋廣一雄）

平成26年度赤い羽根「災害ボランティア・ＮＰＯ活動サポート募金　住民支え合い活動助成事業」

〈対象〉
福島県在住者５名以上で構成されているボランティアグループやＮＰＯ法人等の非営利団体が平成26年度に実施する以下の助け合い活動及びボランティア活動
①生活支援活動　②サロン活動　③季節の行事　④住民交流事業
〈助成金額〉１団体あたり１回上限１０万円
（１年間に２回まで応募可能）
〈応募締切〉随時応募
〈お問合せ先〉社会福祉法人 福島県共同募金会
電話　024-522-0822（平日8:30～17:00）

2014年度「津田梅子賞」

〈対象〉以下の①または②に該当する個人/団体で、現代社会に顕著な影響を与えた方
①女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織（性別を問いません）
②さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性
〈賞〉副賞として、１名または１団体につき賞金３０万円
〈応募締切〉平成２６年７月１８日（金）
〈お問合せ先〉
津田塾大学企画広報課内「津田梅子賞」事務局
電話　０４２－３４２－５１１３

一般財団法人 松翁会　社会福祉助成事業

〈対象〉社会福祉に関する民間の事業
以下の３案件を対象とする。
①障がい者の福祉向上案件　②難病案件
③虐待防止案件
※申請には都道府県・市区町村社会福祉協議会又は、県及び市区町村行政の福祉関係部署のコメント記入が必要となります。
〈助成金額〉１件あたり上限６０万円
〈応募締切〉平成２６年７月３１日（木）
〈お問合せ先〉一般財団法人松翁会 事務局
社会福祉事業部 助成係
電話 03-3201-3225（平日9時～17時）

Panasonic ＮＰＯサポート ファンド 2014年募集　環境分野

〈対象団体〉環境問題に取り組み、強い市民社会の創造を目指すＮＰＯ/ＮＧＯ
〈対象事業〉第三者の多様で客観的な視点を取り入れた組織基盤強化の一連の取り組み
〈助成金額〉１団体あたり上限２００万円
〈応募締切〉平成２６年７月３１日（木）
〈お問合せ先〉
特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金
Panasonic NPOｻﾎﾟｰﾄ ﾌｧﾝﾄﾞ［環境分野］協働事務局
担当：美濃部・木村
電話 03-5298-6644（平日10時～17時）

Panasonic ＮＰＯサポート ファンド 2014年募集　子ども分野

〈対象団体〉子どもの健やかな育ちを応援する新しい社会づくりを目指し、先駆的な活動と組織の自己変革に挑戦するＮＰＯ/ＮＧＯ
〈対象事業〉第三者の多様で客観的な視点を取り入れた組織基盤強化の一連の取り組み
〈助成金額〉１団体あたり上限２００万円
〈応募締切〉平成２６年７月３１日（木）
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
Panasonic NPOｻﾎﾟｰﾄ ﾌｧﾝﾄﾞ［子ども分野］協働事務局
担当：坂本・武藤
電話 03-5623-5055（平日10時～17時）

第４９回「NHK障害福祉賞」

〈対象〉第１部門：障害のあるご本人
（学校や施設での生活、自立や就労への挑戦、また自分の生きてきた道など、ご本人の体験の記録）
第２部門：障害のある人とともに歩んでいる人
（教師、福祉施設職員、ボランティア、職場の関係者、友人、家族など、障害のある方と日々接している方の作品。成長の記録、交流の体験記など）
〈賞〉最優秀：賞状、賞金50万円、副賞
優秀・矢野賞：賞状、賞金20万円、副賞
佳作：賞状、賞金５万円、副賞
〈応募締切〉平成２６年７月３１日（木）
〈お問合せ先〉NHK厚生文化事業団「障害福祉賞」係
電話 03-3476-5955（平日10時～18時）

「ＬＵＳＨチャリティバンク」助成

〈対象〉①被災地の復興支援活動、被災された方たちへの支援活動　②自然環境の保護活動、動物の権利擁護活動、人権擁護・人道支援活動
③福島第一原発事故により遊び場を失った子どもたちに、楽しみやレクリエーション活動を届ける活動
〈助成金額〉①、②、③とも10～200万円予定
〈応募締切〉①、②偶数月の月末
③9月末、12月末
〈お問合せ先〉
株式会社ラッシュジャパン　チャリティバンク事務局
電話 03-6859-0767（平日 11時～17時）

お知らせ イベント 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります
（担当：桜井千鶴子・菅沼美香）

～考えてみませんか？安心できる今日・明日～

◎成年後見制度　説明会
◎後見に関する個別相談会

高齢期を迎えた方が、最後まで安心して自分らしく生活を送れるよう手助けをしてくれるこの制度を、わかりやすく説明いたします
〈日時〉毎月第2木曜日
（7月10日・8月14日・9月11日）
10:00～11:30　18:30～20:00
＊夜の部は偶数月のみの開催
〈場所〉福島市中央学習センター
〈参加費〉無料（別途資料代300円）
〈お問合せ先〉
ＮＰＯ法人 市民後見サポートの会
ＴＥＬ/ＦＡＸ ０２４－５２２－１４２６

ストーマ保有者の相談会

（人工肛門・人工膀胱を造設された方）

〈日時〉毎月第２土曜日・13時～15時
※随時お越しください。
（7月12日・8月9日・9月13日）
〈場所〉福島市市民会館　TEL 024-535-0111
〈参加費〉無料

心配事・悩み事…お気軽にご相談下さい。秘密は厳守いたします。ご家族もぜひおいでください。予約不要。同憂者も話し相手として参加しています。看護師さんも相談相手として参加します。

〈お問合せ先〉公益社団法人
日本オストミー協会福島県支部　菅野
ＴＥＬ/ＦＡＸ ０２４－５５７－２８０２

「認知症に関する定例のつどい・相談会」

こんな症状のとき、どう接すればいいの？介護がつらい、話を聞いてほしい等…

〈日時〉毎月第2日曜日　13:30～15:30
（7月13日・8月10日・9月14日）
〈場所〉福島市保健福祉センター
〈参加費〉無料

相談会(つどい)では「ああ、自分だけではないんだ」と気持ちが軽くなって、生きること、介護することへの勇気がわいてきます。他の方の知恵や工夫を知り、情報も交換できます。

〈お問合せ先〉公益社団法人
認知症の人と家族の会福島地区会
代表世話人　井桁
ＴＥＬ/ＦＡＸ ０２４－５２２－７８８６

劇団1980公演「素劇 あゝ東京行進曲」

～黒い箱と白いロープ　表現の面白さが光る！～

昭和の初頭ー日本レコード歌手第一号として輝かしい脚光を浴びた歌姫・佐藤千夜子の生涯。当時の流行歌50曲あまりをちりばめながら昭和という時代を描く。

〈日時〉７月２１日（月・祝）13:30～
２２日（火）13:30～／19:00～
２３日（水）18:30～
〈場所〉福島テルサ　ＦＴホール
〈費用〉入会金　１０００円
月会費　一般　２４００円
大学生　１５００円
高校生以下　５００円
〈お問合せ先〉福島演劇鑑賞会
ＴＥＬ ０２４－５２３－３８３６

助成財団シンポジウムin 福島

助成関連団体が福島に一同に集い、各団体の助成金の特徴や内容、そして助成応募のヒントを伝授！

〈日時〉９月６日（土）13:00～18:00
〈内容〉
第一部：基調講演（助成金関係）
第二部：助成選定団体事例報告から学ぶ
第三部：参加者全員による意見交換会
第四部：助成財団等との名刺交換交流会
〈場所〉福島市市民活動サポートセンター
〈お問合せ先〉
福島市市民活動サポートセンター
ＴＥＬ ０２４－５２６－４５３３